

# アルヘンティーナ Argentina

社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

No. 32

20 de Abril, 2001

## 話題

- カバロ再登板 ..... 1
- 経済立直しに苦悩 ..... 3
- 最新情勢 ..... 4
- 再発 口蹄疫 ..... 5
- タンゴと邦楽 ..... 6
- オンブーとガウチヨ ..... 7
- 随想 私とアルゼンチン .... 8
- 会員懇親パーティー ..... 9
- コスキン祭に高校2年生 .. 10
- 日本のアルゼンチン村 ..... 11



## アルゼンチン 難局脱出へ正念場

2年前までは、世界の経済優等生といわれていたアルゼンチンが、今財政金融の悪化に苦しんでいる。資金は流出、消費は停滞、失業者はふえ、政局は不安定である。経済相カバロが期待を一身に集めて久々に復帰した。アルゼンチン滞在30年、現地情勢に精通する外務省出身の菊池寛士氏と、野村総研のエコノミスト寺谷淳氏に分析をお願いした。

編集長

## カバロ経済相再登板の背景

菊池 寛士

### 保守的自由主義と社会民族主義の妥協の果て

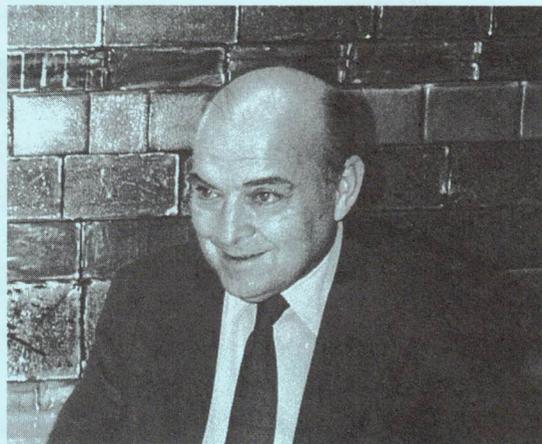
アルゼンチンほど恵まれた国は無い、と殆どのアルゼンチン人は信じている。無理もないと思う。原生林生い茂る熱帯のミシオネスから地球最南端の港町ウスアイヤ、その間を繋ぐ肥沃な大平原パンパと地球創世紀の頃を思い出させるパタゴニア。チリとの国境沿いに走るアンデス山脈は南半球最高峰アコンカグアに始まりフィッツロイに到る様々な峻峰を連ね、その山裾地帯に展開する火山群、温泉、湖沼、溪谷などはスイスなどとは比較にならない気宇広大な観光資源を提供している。著名な農牧水産資源のみならず、アンデスの支脈につながる鉱物資源も最近脚光を浴び

て来ている。マクロの見方からすれば恵まれた豊かな国と自他ともに認められて然るべきアルゼンチンが、どうして財政金融危機を招きデフォルト寸前にまで行くようなことになってしまったのだろうか？

非現実的且つ時代錯誤的の社会民族主義が主流派を形成している現与党アリアンサ、労組の影響下にあるペロニズム、この2大政治グループが絶対的多数派を占める議会。すべては、これと対立せず共存を図ろうとした保守的自由主義者デラルア大統領の悲劇に起因している。就任後やったことと言えば前政権の負の遺産を弁解の道具にし、優柔不断・政府不在・政策不在の印象を国民に与え、その為殆どの投資計画は足踏みし、消費性向は30%以上も低下するデフレを招き、失業率も17%を上回る結果となった。人災である。

### 最後の火消し役カバロの登場

デラルア辞任の噂がブラジル発で飛び交うようになって、国民の懸念が頂点に達する頃、奇蹟が起こった。最後の火消し役としてデラルアが経済相に三顧の礼で招聘したかつての政敵ドミンゴ・カバロ（メネム前政権の経済大臣として1ドル/1ペソの固定カレンシー制を布き、超インフレを克服、経済安定に成功し、第一次メネム時代の繁栄の土台を作った政治家兼エコノミスト）が、アルゼンチンの経済危機を救うために必要な政府機構改革・税制改革および行政システム改革などを即座に実施できる権限〔議会のファースト・トラック、1年間



カバロ経済相

の期限付き〕を就任の条件として要求し、それに応じた政府提出緊急法案を、上下両院とも、土・日も休まず3連続徹夜の審議の結果、政党横断的賛成票多数で可決成立せしめたことである。グローバリゼーションに背を向けず、資本主義体制が支配する国際社会の一員としてアルゼンチン再生を図ろうと言う考えが、各政党の党利党略を超え、政党支配に替わる新しい横断的政治地図が誕生した瞬間であったともいえよう。もとより、与党アリアンサや野党ペロニスタ内の社会主義者や左翼民族主義者などは、この法案に反対し、中には脱党して新政治集団を形成する動きもあるが、利権中心でイデオロギー上はごった煮の感が深かった政党地図の分水嶺をはっきりさせる上では極めて画期的な出来事であったと言えよう。3月末のギャラップの世論調査では、国民の72%がカバロを経済相に登用したことを歓迎しており、カバロがアルゼンチン経済の活性化に成功するだろうと信ずる国民も50%という結果を出している。既成2大政党に属さないカバロにとって、経済危機克服に成功する以外に彼の政治生命を2003年の大統領選挙に結びつける道はない。カバロが、彼の全知全能を傾けて彼自身の為に努力する事が、アルゼンチン経済再建を齎す事を祈念したい。デラルア以下の政治家の党利党略を超えた協力体制も上記実現に不可欠な要素であろう。

(きくち かんじ、在ブエノスアイレス、エキパルコン社長、元駐アルゼンチン大使館書記官)



大統領府

ア国観光庁提供

# 国内産業保護で経済立直しへ

寺谷 淳

## 資金流出する度に金融危機

最近10年間のアルゼンチン経済を概観すると、資金が流入すれば順調に経済成長し、逆に資金が流出すると金融危機に近づくという循環をしている。これはアルゼンチンの対外債務が大きいためである。

1991年にカバロ氏がメネム政権の経済相に就任すると、通貨をドルに固定するカレンシー・ボード制を導入するとともに、国営企業を民営化し、外国企業に売却した。通貨と物価が安定し、海外からの投資が続いたため、1991年から4年間の平均成長率は、8%近い高率であった。1994年末にメキシコ危機が発生すると、経済危機が連鎖するとの観測から、アルゼンチンから資金流出が起きた。この時は、カバロ経済相の迅速な対応で、先進国や国際機関から資金を借り入れ、経済危機を回避した。しかし、1995年は、マネーサプライが減少したため、マイナス成長となった。1996年はブラジルに輸出を伸ばすことで、経済は回復した。この年、カバロ氏は政権を去った。

## 投資はブラジルに移転

1998年のロシア危機が起きると、欧米の投資家が中南米債券への投資に慎重になった。1999年初めにブラジルが変動相場移行による通貨切り下げを余儀なくされた。通貨切り下げでコストが安くなったブラジルへアルゼンチンの製造業が移転し、直接投資はブラジルに集中するようになった。アルゼンチンでは、ドルとペソが等価で流通しているため、ブラジルに合わせて通貨切り下げを行なうことは困難である。

2000年に、デラルア政権は、財政赤字を減らせば、投資がアルゼンチンに向かうようになると信じ、各種増税、公共事業削減、公務員給与引き下げ等を行なったため、かえって内需が抑制された。政権内の対立も災いして、2000

年10月に、アルゼンチンに対する不安が高まった。2001年にIMFを中心とする国際機関化の資金注入で小康状態を得たが、経済回復の兆しは見られなかった。

## 外資呼び込みへ資本財関税を廃止

カバロ新経済相は、アルゼンチンが通貨を切り下げずに、投資を呼び込むためには、外資企業に進出のインセンティブを与えることが必要と考え、「競争力法」を早期に議会通過させ、4月1日から施行した。これは、今までメルコスール外から輸入される資本財にかけられていた14%の関税を廃止し、設備投資を促進するとともに、輸入される消費財に最高35%の関税をかけ、国内産業を保護するものである。うまく機能すれば、電気製品等の製造業は、機械を輸入して工場を建設し、製品をアルゼンチンで生産するほうが、輸入製品を販売するよりも有利となる。カバロ氏は、増税を行なえば消費が冷え込むことを認識し、行政組織のスリム化による財政赤字削減を重視している。

## どうなる財政赤字削減

ブラジルは、メルコスールの自由貿易の趣旨に反するアルゼンチンの政策を追認した。アルゼンチンの経済再生の方が重要であるからである。IMFは静観を続けている。カバロ経済相の迅速な対応により、金融市場の不安は低下し、資金流出による債務不履行は防げた。国際機関からの資金注入を得ているため、急激な資金流出がなければ、債券利払い、償還に問題はないと見られる。今後は、行政改革による財政赤字削減が実現できるか、競争力法により、直接投資がどこまで伸びるかが注目される。景気と雇用が改善するまで、しばらくの時間を要すると見られる

(てらたに あつし、野村総研副主任研究員、当協会員)

## ドキュメント

# 最新アルゼンチン情勢

～政治・経済の主な出来事～

小林晋一郎

マスメディアを賑わす政界を巻き込んだマネーロンダリング疑惑、マチネア経済大臣の辞任、後任ムルフィー大臣の新経済政策発表直後の辞任、返り咲くカバロ新経済大臣、アルゼンチン経済はエマージング・マーケットの中でトルコと並んで今後の動向が注目される。

### 「高額現金取引規制開始」

脱税防止を目的とした1万ペソ以上の取引で現金使用を禁止する制度が1月8日から実行に移された。高額取引には銀行小切手以外には中銀小切手の使用が義務づけられた。中銀は5000ペソ、1万ペソ、5万ペソの3種類の小切手を発行する。

### 「貿易収支」

政府統計局発表によれば2000年の貿易は輸出262億5100万ドル、輸入251億4800万ドルで11億300万ドルの貿易収支黒字を計上した。前年は輸出233億3300万ドル、輸入255億800万ドルで21億7500万ドルの赤字であった。輸出相手国・地域はメルコスル32.0%、EU 17.5%、NAFTA 14.2%、輸入ではメルコスル28.6%、EU 22.9%、NAFTA 22.4%である。

### 「債務交換」

政府は2月7日、残存期間の短い国債を長期の新発国債に交換する債務交換を実施した。政府は42億200万ドルの新発債を発行、この内、36億600万ドルが既発国債からの交換で、債務の軽減と期間の長期化に寄与した。

### 「2000年度財政赤字」

政府によれば2000年度の財政赤字は65億8900万ドルで、3度の修正後のIMF目標67億ドルを達成した。同時に2000年度の経済成長率はマイナス0.2%と発表された。

### 「マチネア経済大臣辞任」

経済停滞に対し有効な政策を提示できなかった責任をとり3月2日、デ・ラ・ルア政権発足以来、アルフォンシン急進党党首の強力なバックアップを得ていたマチネア経済大臣が辞任、後任に

ムルフィー国防大臣が就任した。ムルフィー大臣はシカゴ大学MBAの資格を持つエコノミストで民間調査機関FIELのチーフエコノミストを歴任、デ・ラ・ルア政権下で国防大臣であった。

### 「ムルフィー経済大臣辞任」

ムルフィー経済大臣は3月16日、教員基金に対する支出6億6000万ペソの削減、大学予算の削減3億6100万ペソ、州に対する教育関係補助金1億2900万ペソ、など教育関連の大幅予算削減を中心とする緊縮政策(2001年19億6200万ペソ、2002年24億8500万ペソの歳出削減)28項目を発表。この内容は、国会審議を要しない大統領令による歳出削減と、増税、4万人の公務員整理など国会審議・承認を必要とする措置よりなっている。

この政策発表直後、教育関連予算の大幅削減に抗議してフリ内務大臣、ストラニ教育大臣が辞任、連立政党のフレパソ・アルバレス党首が反対を表明、フレパソ党員の全閣僚を辞任させる、など政権内部でムルフィーは孤立した。さらに、労組の抗議デモやゼネスト決定、教育関係者の抗議、学内スト決定、学校周辺の道路封鎖などに直面、ムルフィー経済大臣は3月16日、サンチャゴからの米州開銀総会よりの帰路、大統領専用機内で辞任した。

### 「カバロ経済大臣就任」

3月20日、ムルフィー経済大臣の後任としてカバロ共和国行動党党首が就任した。カバロ経済大臣はメネム政権時代に経済大臣を歴任、兌換法による通貨制度(カレンシーボード制)の導入によりハイパーインフレの収束に成功、国際金融界で著名なエコノミストである。

### 「マネーロンダリング疑惑」

アルゼンチンのメルカド・アビエルト・グループのケイマン所在の銀行と、経営破綻したレプブリカ銀行(本店所在地メンドサ市)の経営者モネタ関連のケイマン所在銀行を経由したマネーロンダリング疑惑で、野党は中銀ボウ総裁の監督責任を追求、辞任を強く要求。モネタがメネム政権時代にメンドサ・グループといわれる政治家(マンサノ、バウサなど)との繋がりが深いことから政局を揺るがしている。

(こばやし しんいちろう、当協会編集委員、東京リサーチインターナショナル研究理事)

## Chiste Argentino

カサ・ロサーダの正門前に、生後間もない赤ん坊が置き去りにされていた。デラルア大統領は、考へに考へた末、真相究明特別委員会を設置、発見されたものが政府に責任のあるものかどうか調査をするよう求めた。

特別委員会は、1ヶ月後、右のような報告書を提出した。

デラルア大統領閣下

本件は当政府となんら関係なしとの結論に達しました。

理由

当政府発足以来

- 1 いかなるものであれ、愛情をもって産み出されたものは何もないこと
- 2 2人以上の人間が親愛をこめて相互協力し合った事例がないこと
- 3 政府の産み出すものに、目鼻のついたものは何もないこと
- 4 「十月十日」という短期間に出来上がったものは何もないこと

真相究明特別委員会

## 緊急会見 キアラディア・アルゼンチン大使に聞く 口蹄疫をどう解決しますか

—残念ながらアルゼンチンにアフターサが再来しました。この伝染性の強い疫病は最近では欧州各国に、一年前には日本をはじめアジア諸国に拡がりました。

—過去7年間、アルゼンチンはアフターサ（口蹄疫）の発生がなく、昨年5月にはOIE（国際獣疫機構・パリ）が「ワクチン注射をしないアフターサ非汚染国」と正式に認定したばかりでした。しかし、隣

国の汚染国から国境を越えて再びやってきたのです。

—アルゼンチンは1989年にアフターサ根絶運動を全国的に展開し、1996年に完遂しました。これは官民一体となって努力した結果です。そのとき私達は新たなワクチンの開発に成功しました。国立衛生研究所で研究、開発され、いまや多くの国に輸出されています。

—したがってアルゼンチンはアフターサの新たな根絶に、しかも以前よりも短期間に実現できると確信しています。というのはこの根絶への挑戦のための最新のノウハウをわれわれは蓄積しているからです。



キアラディア大使

—牛は本来、草食動物です。アルゼンチンの牛肉は、高密度で飼育穀物による濃厚飼料や動物性たんぱく質を与えてつくる人工的なものではなく、自然でおいしく、ジューシーで柔らかいと、世界的に評価されています。それは2年から2年半もかけて、薬品を一切使用しない広大なパンパの自然な草と太陽で飼育されているからです。

—さらに重要なことは、健康食品

としてのアルゼンチン牛肉は、anabolico, pesticidas, 重金属、ズルフォンアミド、抗生物質などの薬品に汚染されていないのが特徴です。自然の草だけを食べているので、人体に危険な狂牛病の心配もありません。

—日本の皆さん、このような理由でアルゼンチンはこのアフターサ問題を早急に解決できると確信しています。アルゼンチンのおいしくて、何よりも健康的な牛肉を世界の皆様に、とりわけ日本の友人に一刻も早く提供したいと願っています。

（専務理事 野村秀治）

# タンゴと邦楽

細川幸夫



チリからアンデスを越えて憧れの国アルゼンチンの首都ブエノス・アイレスに着いたときの思い出です。ホテルで独りになってラジオのスイッチを入れると私の大好きなタンゴの名曲「エル・チョクロ」の歯切れのよいリズムカルな調べが流れてきました。聞き入るうちにさまざまな過去が走馬灯のように私の脳裏に去来しては遠い異郷で夢を見ている心地でした。ガスレンジや炊飯器もなかった戦前、カマドに火を起こして飯を炊く時の母の口三味線を混えて唄う長唄「越後獅子」が懐かしく思い出され、はては「エル・チョクロ」に替って聞こえるようでした。「打つや太鼓の音も澄み渡り、角兵衛角兵衛と招かれて、居ながら見する石橋の 浮世を渡る風雅者 うたうも舞うも囃すのも 独り旅寝の草枕 おらが女房を褒めるぢゃないが 飯も炊いたり水仕事 麻燃るたびの楽しみを 独り笑みして着たりける…」の哀切きわまりない節回しとドラマチックな演奏は、どこか「エル・チョクロ」と似ており、歌詞の内容も旅から旅の角兵衛獅子の境遇と、国に残した妻をしのぶ切ない心境が述べられており、一人旅寝の草枕とはあたかも私の一人旅のさびしさを言っているように思えました。諸兄もこの日本とアルゼンチンタンゴの名曲を聞き比べて下さい。きっとどちらも気に入っていただけのものと思います。

私はタンゴで唄われるスペイン語の間のとり方が、邦楽の近松の人形浄瑠璃の語りのそれと全く同じと思うのです。タンゴの演奏に欠かせないバンドネオンが人間の吐く呼吸に合わせるように調子を取り、むせび泣くようなヴァイオリンと軽快なピアノの伴奏に乗ってタンゴの曲調は小節がきいて歌う言葉も母音終りで歯切れよく、リズムに乗って躍動感があり、また官能的で叙情性に富み、ロマンチックで、およそ人間感情のすべてを心憎い程あらわに表現しております。

メキシコのカンシオンが都会風なら、ランチェラはローカル風とでもいいますか、切々と涙ながら

に歌う彼らの一連の歌の中に日本人の心情にも似た浄土への願いや死生観を垣間見ることが出来ます。貧しくとも憧がれと空想で心の飢えをしのぐラテン民族の心の底にひそむ信仰はわれわれ日本人の持つ極楽浄土へのねがいと、私は思うのです。

日本にも古くからこの世は仮の宿、人間の生涯は夢の中の夢である。この世を変転つねなき無常の憂き世と嘆き、またそれ故に“浮き世”としてこの世を生きようとする仏教的な死生観を誰もが持つております。また日本の音楽にも古来から民謡・俗曲・小唄・端唄・地唄など三味線を用いた邦楽と呼ばれるものには、長い伝統と歴史に培われた日本の言語文化としての高い芸術性があり、けっしてスペイン語圏世界に勝るとも劣るものではありません。「月日は百代の過客にして行きかふ年も又旅人なり」とは「奥の細道」の冒頭の一節です。確かに歳月は永遠の旅人で巡り来ては去り、また来る四季の移ろいは人の世の旅に似て時の流れの中にさまざまな人との出会いや別れを思い出させます。人は晩年を迎えるとその生活につねにまつわりつくものは孤独と郷愁の思いでしょう。破滅の恋に見る真実の愛、ひたむきな愛。恋というものに対する人間の弱さや、心に深く迫ってくる望郷の歌など聞く者に深い感動を与え、過ぎ去った昔を偲んで熱い涙を流させるラテン・タンゴの魅力は何よりも人の心をなごませるいかに人間的な味わい、生命の匂いがするからです。俗に唄は世につれ、世は唄につれ、唄はその時代を生きた証ですが、また時代の波には抗しようもありません。若い世代の人々には十分に理解してもらえとは思いますが、この一文が私と同じくタンゴの愛好家の諸兄の共感を得られれば嬉しく思います。

(ほそかわ ゆきお、駒沢大学名誉教授、スペイン語、タンゴに関する著書多数)

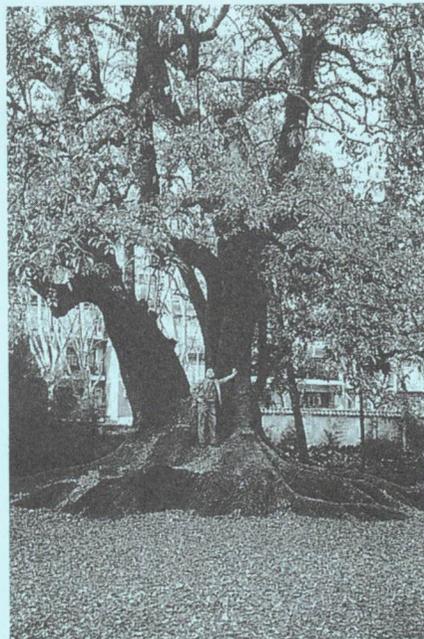
# オンブーとガウチョ

江藤正喜

アルゼンチンに着任して間もない頃（1993年8月）、フロレンシオ・バレラにあるハドソン博物館を訪れた。周辺には往時のパンパを思わせる自然が残り、アルゼンチン生まれの文学者ハドソンが幼時に観察した鳥類も多数生息している。パンパ自生の木ターラの枝にはオルネーロがカマド型の精巧な巣を作り、樹上ではベンテベオが叫び、川べりの杭の根元にはカラコレーロが食べた巻貝の殻が落ちていた。博物館の近くに樹齢二百年を超えるというオンブー（注1）の古木があり、ハドソンが子供のころ遊んだ木だと伝えられている。パンパへ入植したスペイン人は目印としてオンブーを植えたという。ハドソンは彼の代表作となった『はるかな国 とおい昔』（寿岳しず訳岩波文庫）の冒頭で、オンブーの思い出を語っている。

〔自宅にあった木は、みな百年もたっていて、それはそれは大きく、そのうえ、高みに立ち並んでいたものですから、十マイル向こうからでもすぐ目にとまりました。（中略）私たちは、板ぎれをたくさん持ったのぼり、枝から枝へかけ渡して、ちっとも危なくない橋をこしらえるのです〕。

現在のパンパはオーストラリアから移植されたユーカリに占められ、オンブーは広場や公園の隅に追いやられている。しかし、オンブーは公園よりもパンパにあってこそ雄雄しく美しい木である。昔から多くの画家がパンパに聳えるオンブーを描いてきた。ガウチョ文学にもオンブーが登場する。『マルティン・フィエロ』（ホセ・エルナンデス作）では、インディオに囚われていた白人女性を救い出した主人公マルティン・フィエロが、オンブーのある土地まで逃げ延び、ホットする場面がある。オンブーの見えるところは白人の土地だったのである。『サントス・ベーガ』（ラファエル・オブリガード作）でも、伝説のパジャ



オンブー

ドル（パンパの吟遊詩人）サントス・ベーガが流れ者との歌較べ（注2）に敗れるシーンで、オンブーが重要な役割を果たす。歌較べに勝った流れ者は悪魔に変身し、オンブーの木を炎で包んで燃え上がり、頂上から火の粉を撒き散らす。ガウチョはパンパに侵入してきたヨーロッパ文化（機械文明）を悪魔の化身と見做し、逆らえない運命として甘受したのである。作者はパンパを舞台に、時の支配者に翻弄されたガウチョの運命を哀感あふれるタッチで歌い上げる。ガウチョ文学にオンブーは欠かせない。

“我はさまよえる歌の調べ、津々浦々で聞かれ、もの静かにさからい、やがて消えゆく調べ、やさしく心地げにふく風は、たえまなく空に舞い、雄雄しきオンブーの、梢を惑わす、我がギターはせつなく、お前にいつも涙をもたらす”（サントス・ベーガ第二章第八節。筆者試訳）

注1. アルゼンチン北東部の川辺に自生する草の仲間。一般にはその巨大さと外観から木として扱われる。年輪がなく木材としての価値はない。

注2. パジャドルたちはどんなテーマでも韻をふんだ即興の詩にして歌を競いあった。（えとう まさき、協会員、「大草原の呼び声」（日本図書刊行会）の著者）

随想

# 私とアルゼンチン

野村 秀治

## 差別のない国

「正直に教えてください。アルゼンチンで差別をうけたこと、感じたことがありますか？」会報編集会議の席上、唐突な質問を編集委員に投げかけた。並みいる委員はブエノスアイレスに在勤したベテランのアルゼンチン通。すべての委員から帰ってきた返事はみな同じ「ノー」。

「では欧米で差別をうけたことがありますか？」ほとんどの委員から「イエス」。私自身、米国生活でたびたび砂を噛むような差別を経験した。

地球上で、アルゼンチンのような白人国でわれわれ日本人に差別感を抱かない国が他にあるだろうか。40年以上も各国の人々との交流を続けた経験から、アルゼンチンは不思議な国とさえ思う。

修好100周年のとき過去100年における日亜両国のバランスシートを調べてみた。つまり国としてどのようなFAVORを互いに供与したかの歴史的事実を列挙してみた。アルゼンチン側が圧倒的に出超なのだ。

日本海海戦における装甲巡洋艦「日進」「春日」の譲渡（1903）、第二次大戦では昭和20年3月までの中立政策（1945）、わが国からの移住者への配慮（1900～）、最近ではワールドカップの日本開催支持（1996）などと、日本へのFAVORが一方向的に多いのに驚かされる。

そして21世紀、世界的な食料難が警告されているなかで、この地球の上で最後に頼りになるのはアルゼンチンの穀物だといわれている。口先だけのジュスチュアではない、国としての真の友好、草の根の本当の親善は「日本とア

ルゼンチン」の間に希少的に存在している。大切に育て、進化させていきたいものだ。

## 国際人のインキュベーター (孵化器)

興味深いデータがある。若いとき語学研修生などでアルゼンチンで研鑽を積んだ人はその後、立派な国際人となって世界中で縦横に活躍しているという多くの事例がある。

わが国を代表するある商社では、つい最近までアルゼンチン卒業生の副社長が同時に二人いた。いずれも国際的に著名な方だ。その他にも世界を舞台にダイナミックな活躍をしており、社内では「アルゼンチン・マフィア」と畏敬されているようだ。

モノカルチャーの日本から、初めて海を渡り外国を体験する。カルチャーショックを乗り越え、体を張ってその国の人たちと深く付き合い、恋し、文化的感動を共有し、仕事をする。このような密度の高い国際人養成の場を提供してくれるのは、差別のない白人国アルゼンチンでこそ、ではないだろうか。

貴重な体験と自信を身につけ、グローバルにどこへでも出かけて、対等に付き合い、友達を作り仕事をすすめる。いま多くの若者が海外に旅行し、留学しているが果たしてどうだろう。

グローバルな視点からは文化的に特殊な、われわれ日本人にとりアルゼンチンは、真の実力を備えた国際人を養成する、かけがえのないインキュベーターだと比喻したら、件のマフィア連中がニタリと微笑み、相づちをうった。

(のむら しゅうじ 専務理事) (1960～63 大阪商船(株) 在勤員としてブエノスアイレスに駐在)

# 大使公邸で協会会員の懇親パーティー

5月23日(水) 午後3時から5時まで

アルゼンチン独立記念日[5月25日]を祝って、日本アルゼンチン協会会員だけの懇親パーティーを開きます。キアラディア駐日アルゼンチン大使のご好意で東京元麻布の大使公邸を使わせて頂きます。大使や総領事、着任したばかりの日系外交官の文化担当参事官らも参加します。ワイン、エンパナーダ、チョリソー・パンなどを用意します。

懇親パーティーに参加できるのは、法人会員のメンバーと個人会員[正会員・賛助会員]です。1名に限り会員以外の方を同伴できます。会場スペースの関係で、参加できるのは先着100名までです。

## 懇親パーティー申込方法

会員および同伴者の氏名・連絡先をFAXかEメールまたは返信用に自分の宛名を書いた往復はがきで協会事務局へお申し込み下さい。

会費1名1800円(当日徴収)

## 理事会・総会

5月23日[水] 午後2時～3時

場所 アルゼンチン大使館ホール

追ってご案内をお送りします。総会に出席できるのは法人会員と正会員のみです。理事会・総会のあと、会員懇親パーティーを開きます。

## ■ スペイン語講座大盛況 ■

□ 火曜日(中級B) クラス9名、

金曜日(初級B) クラス12名

今季は、生徒さんや会員のご紹介の方が増えました。両クラス共レベルが高くなってきましたが、リナ先生の魅力は絶大で、転勤などの方を除き、皆さんが引き続き受講されています。和気藹々と楽しいクラスです。途中参加も可能です。

□ 新企画 水曜日(初級A) クラス6名で

スタート

初心者クラスをというご要望にお答えする形で実現しました。6名で募集したところ、早々と定員になりました。アンパロ先生は明るく楽しい方で、リナ先生のクラス同様、人気のクラスになるでしょう。途中参加されたい方はお問合せ下さい。

□ 新企画 土曜特別コースを新設 募集中  
初級A' (初心者向け)

5月12日～7月7日 12:30～14:00

中級A (中級者向け)

5月12日～7月7日 14:15～15:45

講師:リナ・B・フェラーラ先生

仕事の都合で、平日は無理だったという方のために新設しました。定員は18名、土曜日の昼下がりに楽しくお勉強しませんか!

授業内容などのお問合せ、お申し込みは山下(03-3501-4684)まで、お気軽にどうぞ。

## 記事訂正

Argentina 31号[2001年1月発行]の記事「ボルヘスはタンゴが好きだった」にミスプリントがありました。

「タンゴの歴史」(岸本静江訳)の著者は、正しくは「エバリスト・カリエゴ」です。お詫びして訂正致します。

編集長

インタビュー この人<7>

## コスキンの舞台に立った日本人高校生

～自作の曲でギター演奏～

笹久保 伸さん

「前の年、父親がコスキンのステージで演奏した時、僕は客席にいました。ああ僕もあの舞台に立ちたいんだと、その時熱い思いがこみ上げてきたのです。」

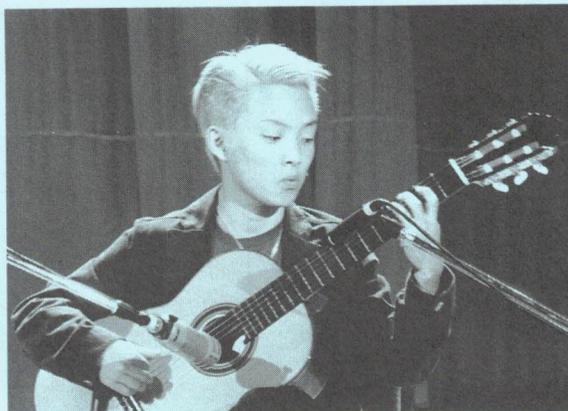
心中深く期したこの少年は、コスキンの風景を脳裏にきざみつけて日本に帰ってきた。

それから猛練習が始まる。埼玉県秩父に住む県立高校2年生。物静かで礼儀正しい小柄な少年である。

物心がついたときには楽器を鳴らしていた。父親の均（ひとし）さんは、もともとアンデス音楽の愛好家だったが、JICAの派遣でペルーに1年滞在して音楽修行に磨きがかかった。去年は、演奏仲間4人と共に日本代表に選ばれて、グループでコスキン民謡祭に出場した。

生後2か月半で母親に抱かれてリマ郊外に渡った伸（しん）さんには1年過ごしたペルーのことは記憶にない。しかし、物心がついた時から家の中には、ギター、チャランゴ、ケーナ、太鼓などの楽器がそこらじゅうに転がっており、家にはアンデス音楽の雰囲気が溢れていた。「壊されてはたまりませんからね。息子用に小さい楽器をいくつも作ってやっていました」と父親。

最初ケーナを吹いていた伸さんは、ギターに転向。今はクラシックギターの先生についている。学校のない日は、1日7時間から8時間ギター練習に打ち込む。「ひざの上に抱っこしていたところからずっと知っています。礼儀正しい少年です。ギターは2～3年前から急速に高いレベルになったと思います。彼の出す



音は純粋な澄み切った音で、感性豊かで音楽性の高い音楽です」と帆足まりさんが評している。

猛練習が実を結んで伸さんは、去年8月福島県川俣町のプレコスキン民謡祭で優勝して本場コスキンへの出場資格を獲得。

今年1月、憧れのコスキンの舞台に立った。ふだんは学校から禁止されているが、この日は髪の毛を金髪に染めて、ユパンキ作曲の「Danza de la Paloma Enamorada」と、前年訪れたコスキンの風景をテーマに自分で作曲した「Paisaje de Cosquin」の2曲を演奏した。

「舞台ではとてもいい気分でした。緊張はしませんでした。ただ、すごく大きい会場に観客がぎっしりで、熱狂的な観客の声がすごく演奏中自分のギターの音がよく聞こえなかったんです。これは困りました。」

folkloreは独学だという。ファンホ・ドミンゲスの大ファンで、楽屋まで押しかけ行ってサインをもらってくる。5月20日には、東京の江戸東京博物館のフェスティバルに招かれて特別演奏者として演奏する。クラシック・ギターの方は一般にレベルが非常に高いが、伸さんは今年6月、思い切って全日本のジュニア・ギター・コンクールに挑戦する。

「将来どうするのか、まだ自分でもよく分かりません。今はただギターを弾くのが楽しくて。」音楽の世界にどっぷり浸かっている17歳である。

ききて 河崎 勲（協会理事、ダンコムジャパン代表取締役）

# 湘南台のアルヘンティーンズ

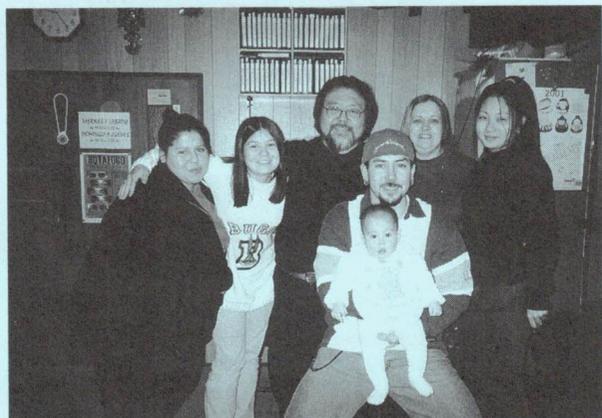
山下 美里

3月の初め、「湘南台にアルゼンチン人のコミュニティがある。週末にはアサード(バーベキュー)パーティーをしているらしい」という話を耳にした。気になって仕方がなかった。3月の終わりから4月の初めにかけて何回か行って来た。

湘南台は神奈川県藤沢市の北部にある。小田急、相鉄、横浜市営地下鉄の3線が乗り入れる大きな駅だ。西口を出て5分ほど歩くと、日系ブラジル人経営のVIA BRASIL(ビア・ブラジル)(湘南台2-18-9 TEL:0466-44-8687 9:30~21:00 土日は22:00)がある。アルゼンチン人の大好物ドゥルセ・デ・レーチェ(コンデンスミルクを煮詰めたもの)やマテ茶などの南米の食材や雑貨、新聞が買える店だ。広い店内の一角はレストランになっている。南米でよく見かけるタイプの店だ。日本語も通じる。日曜の夜、レストランは若いブラジル人たちで一杯だった。

仲村渠(なかんだかり)徹實さん(51)はワゴン車の運転手をしている。彼は沖縄生まれで2歳で渡米した。ブエノスアイレスでは霊柩車の運転手だったそうだ。彼は13年前に来日した。日系人のコントラティスタ(請負人)が工場の労働者として日系人を多数日本へ連れてきたという。「最初の半年は群馬にいたが、時給の良い湘南台のプレス工場にみんな移ってきた。2年程経ってから家族を呼び寄せた」彼のおかげで、どうして湘南台なのかという謎が解けた。

市の外国人相談室に勤めるベロニカ玉城さん(27)に訊いた。藤沢市在住のアルゼンチン人は350人を超えるという。彼女も11年前に来日した日系人家族の1人だ。「来日に際し、小さい頃から続けていたバレエをやめなければならなかったことが辛かった」働きながら2年で日本語をマスターした。言葉のハンデを克服し、通信制の高校を5年かかって卒業した。



日系アルゼンチン人 佐久川さんファミリー

2度目のチャレンジで今の職を得たという。LA CUEVA(ラ・クエーバ)(湘南台2-17-7-2F TEL:0466-42-6678 19:00~2:00 金土は5:00)というプールバー兼レストランはルイス佐久川さん(44)の店だ。写真は彼の家族だ。お孫さんもいる。スペイン系の奥さんの作るミラネッサ(ミラノ風カツレツ)などのアルゼンチンの家庭料理はととても美味しく、安い。エンパナーダ(ミートパイ)やパンチョ(ホットドッグ)もある。水曜日はソーキそばやゴーヤチャンプルなどの沖縄料理も食べられるようだ。店が賑わうのは夜10時を過ぎてからだ。「ラ・クエーバには洞窟という意味の他に、人が集まる所と言う意味もある。仲間が集まる場所を作りたいかった」と教えてくれた。今年の8月8日で2周年だ。「日本では八という数字には良いことが未来に向かって広がるという意味がある」と言うと、家族皆で喜んでた。湘南台の彼らの将来が末広がりであって欲しい。ところで、肝心のアサードパーティーは5月5日(祝)の11:00から厚木市のあゆみ橋でやるそうだ。食べ放題飲み放題で男性3,000円、女性2,000円。行ってみたい方は3日前までにリカルド仲村渠(なかんだかり)さん(090-8847-1938)にお電話を!

(やましたみさと  
当協会セクレタリア、当協会員)

## 催し物 は 当協会員特別割引

### ■ ウーゴ・ゴールドデンツバイン ピア ノコンサート (NY在住のアルゼンチ ン人)

「アディオス・ノニーノ」他アルゼンチン現代作曲家  
の作品演奏

5月19日(土) 16:00～  
東京 下北沢アレイホール(北口徒歩1分)  
5,000円(ワイン・エンパナーダ付き)

**【会費は32号会報持参で500円割引】**

問合せ:アレイホール(TEL:03-3468-1086)  
平日13:00～18:00  
橋 佳子(E-mail:ysht@gol.com)

### ■ 小松亮太&ザ・タンギスツ

5月19日(土) 18:30～  
5月20日(日) 14:00～  
アートスフィア(東京 天王洲アイル)  
5,500円(全席指定)

問合せ:アートスフィア(TEL:03-5460-8511)

### ■ アムラン ラテンミュージックコン クール/コンサート

5月20日(日) 17:00～  
東京 両国江戸東京博物館1Fホール  
3,500円(全席自由)

帆足まり子(司会も)ほか日本ラテン界音楽家多数  
笹久保伸も出演  
問合せ:日本ラテンアメリカ音楽協会  
(TEL:03-3310-2691)

### ■ ゴヤ・フリオ彫刻展 (アルゼンチン 人彫刻家の作品展示)

5月26日(土)～6月24日(日)  
10:00～18:00月休  
メタル・アート・ミュージアム 光の谷(千葉県)  
(北総公団線「印旛日本医大前」から六合循環バス  
「美術館前」下車)  
500円 初日19:00からパフォーマンスあり  
問合せ:メタル・アート・ミュージアム 光の谷  
(TEL:0476-98-3156)

### ■ イングリッド・フリッター ピアノ コンサート (2000年ショパンコン クール第2位)

6月14日(木)～6月23日(土)  
仙台(14日) 大阪(15日) 石川県野々市(16日)  
名古屋(19日) 浜松(21日)  
東京(22日) 前橋(23日)  
2,800円～4,000円

**【大阪 東京 前橋は事前申込で会員割引あり】**

問合せ:カワイ音楽振興会  
(TEL:03-3320-1671)

### ■ アニバル・アリアス オスバルド・ モンテス タンゴコンサート

6月14日(木)～6月23日(土)  
名古屋(14日) 大阪(15日) 京都(16日) 福井  
三国(17日) 横浜(21日)  
東京(22日) 藤沢(23日)

**【東京は事前申込で500円会員割引あり  
入場の際は32号会報持参のこと】**

問合せ:東京 チケットスペース  
(TEL:03-3234-9999)  
その他の地域 オフィスアルファ  
(TEL:052-930-4333)



### FED CUP テニス

「日本 vs アルゼンチン」  
4月28日(土) 13:30 シングルス2試合  
4月29日(日) 11:00 シングルス・  
ダブルス

有明コロシアム  
1000円～6000円 前売券割引  
プレイガイド、テニスショップなどで  
問合せ(財)日本テニス協会  
TEL03-3481-2321  
<http://www.tennis.or.jp>

### 日本アルゼンチン協会会報32号 2001年4月20日発行

発行人	野村秀治
編集長	河崎 勲
発行所	社団法人 日本アルゼンチン協会 105-0004 東京都港区新橋1-17-1 新幸ビル 電話 : 03-3501-4684 FAX : 03-3595-3932 Eメール : argentina@nifty.com
印刷所	株式会社 アイデア・インスティテュート